

2007年(平成19年)12月24日(月曜日)掲載

出版産業のシステムとマーケティング情報

文化通信

b B B

Bankatashin Book Business

07年12月号の記事

■加速する出版流通システム—3
●店売、外商、楽器の一元管理を目指す「Book Answer」の移行—3
■「2人で2時間半」が「1人で2時間半」に—4・5
●ブックハウス神保町でICタグを活用した店舗設計—4
■新たな出版システムの流れ—6
●出版業界向けの人材派遣・紹介業務開始—6
●書店向け人材派遣・紹介業務開始—6

パリティシステム
●Honya Clubで見ると—7
●2007年ベストセラーを買ったのはこの人たち—7
●「もくもく」読書も主役は女性だった—7
●「アイの読書学 第4回」—8
●「リデザインでアトムをカワイイ・キャラに」手塚プロダクションの中野シロの巻—8

加速する出版流通システム

店売、外商、楽器の一元管理を目指す

新システムへの移行

煥乎堂



新システムへの投資について「書店を続けていく意志があるから」と話す小林卓郎社長と煥乎堂前橋本店概観

書籍・雑誌のほかに、楽器なども手がける

光和コンピューターより「Book Answer」システムを採用、シャープ製のPOSを9台導入した。

株式会社 煥乎堂

代表者 取締役社長 小林 卓郎
所在地 前橋市本町一丁目2番13号
創業 明治初年
創立 大正10年2月15日
資本金 30,000,000円
従業員 約180名
営業品目
書籍、地図、雑誌の小売
官報普及販売及財務省印刷局発行図書普及販売
企画出版業務
検定教科書の供給販売
ヤマハピアノ、エレクートン、クラビノーバ、オーディオ、キーボード、管・弦・打楽器、教育楽器、LM楽器、楽書、CD、DVD、VTR、音楽教室、英語教室、パソコン教室、貸スタジオ
事務用器具機械、事務用文具全般、学校教材教具ギャラリー
ホール (165名収容)

定期企画
煥乎堂文藝講座、煥乎堂音楽サロン
煥乎堂美術講座、ヤマハコンサート
煥乎堂シネマの会等

FLOOR INFORMATION

5F 音楽関連へのアタック
音楽関連に、積極的に取り組む「2F」
音楽教室
（講師の人材を専任で確保）
ホール1・165席

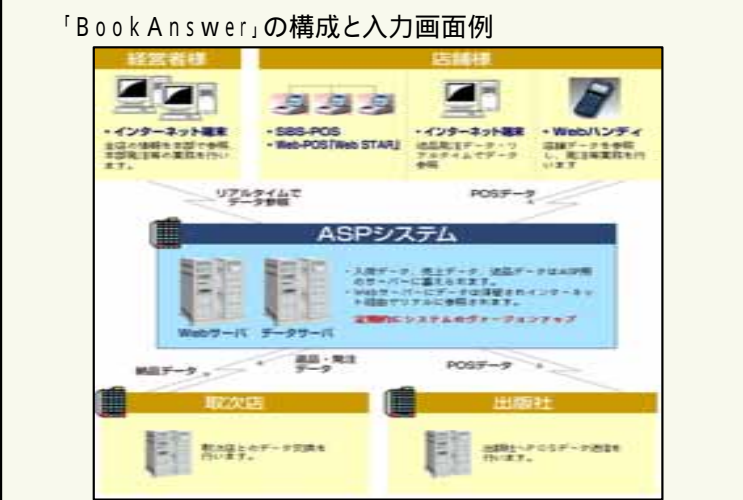
4F 楽器関連へのアタック **大型アタック**
楽器は楽器店と連携する形でサポートする「2F」
ピアノ、エレクートン、吹奏楽、弦楽器
打楽器、ギター、アンプ、音響機、教育楽器
和楽器、楽器関連の小物、楽譜、CD、DVD

3F 子供の成長のサポート
店舗から、子どもの可能性を引き出すための「2F」
児童書、コミック、マンガ、児童書
児童書、学習参考書
教育書、文房具

2F 大人のためのサポート
仕事に役立つ情報から関連 書籍の「2F」
ビジネス、人文、経済、新聞、漫画
辞書、辞書、辞書、辞書、辞書
辞書、辞書、辞書、辞書、辞書

1F 暮らしのサポート **1F新規**
暮らしのサポートと生活のサポート
暮らしのサポートと生活のサポート
暮らしのサポートと生活のサポート

群馬県前橋市の煥乎堂は2007年12月から新POSシステムを稼動した。出版物のほか文具、楽器など多様な取扱商品を一元管理すること、店舗別、部門別での損益を把握することで経営の効率化を目指している。



- 「Book Answer」の機能
1. 月額低額料金での店舗の業務・分析システムのインターネットでの利用
 2. 本部・業務・分析システムのインターネットでの利用
 3. インターネット端末での検品・返品・補充発注・定期改正の作業
 4. 出版社在庫を確認しながらの発注作業
 5. 週間・月間売上ベストからの補充発注作業
 6. 売上げロリストでの返品作業
 7. 検索からの単品情報確認・発注作業
 8. 店別・分野別の指定日時点での在庫を日別・月別に確認し経営判断に活用
 9. Webハンディーのデータ取り込み可能
 10. Webタッチパネルシステム利用可能
 11. 取次店からの返品データ戻しを取り込み可能
 12. 出版社へのPOSデータ送信 (オプション)

入荷リスト画面

発注入力画面

店舗と外商を管理できる「Book Answer」を選択

同社は800坪(出版物は550坪)の本店と250坪の群馬町店、4坪の県庁店の3店舗を展開するほか、外商、楽器販売、音楽教室運営も行っている。

システム面は、これまで会計を中心とした基幹システムを自社開発し、書店部門別のPOSは日本出版販売の「ミニトータルシステム」を利用してきた。

しかし、基幹システムのサポートが2009年中に終了すること、また「ミニトータルシステム」が更新時期を迎えるのを踏まえ、後継のシステムを検討した結果、店売と外商の両方を一元管理できることや、将来的には楽譜、楽器まで出版物以外の商材も含めて管理するための拡張性を重視し、光和コンピューターが開発・提供している書店システム「Book Answer」の導入を決めたという。

2008年5月期決算に向け順次稼動

同社の年商は約28億円。この内訳は店売8：外商10：楽器(音楽教室含む)10という売上構成になる。

導入スケジュールは12月1日の上半期末の棚卸しに合わせて新POSシステムを稼動し、2008年2月に外商システムをスタート。2008年5月の年度末決算までに問題点を抽出し改善、6月からの新年度に本稼動を目指している。

店舗システムはシャープ製のPOSレジを本店の1~4階売場と別館の文具売場に6台、群馬町店に2台、県庁店に1台の計9台を導入。サーバーは会館のレンタルサーバーを利用している。

導入コストは今後稼動を予定している外商システムも含め1600万円。ランニングコストはシステム使用料15万円と取次各社から納品データを受け取るための費用20万円となっている。

小林社長「書店を続ける意思表示」

新システムへの移行目的について、小林卓郎社長は「売場の充実による商品回転率の向上などの効率化と、店舗ごとの収益を把握するため」と話す。

具体的には 発注・検品・在庫管理など商品運営の効率化、M Dの充実による販売機会ロスの減少、資金の有効活用、部門別・個店別損益の把握、...

を目標としており、商品マスタの一元管理によって、外商が店舗から商品を抜き取った場合の仕戻し処理の自動化や、棚詰め作業の標準化などにも取り組んで行く。

就任から2年半が経過した小林社長だが、近隣ではイオンモール高崎への未来屋書店、けやきウォーク前橋への紀伊國屋書店の出店など競合が激化し、業績への影響は避けられない状況にある。

そんななかでの新システムへの投資について、小林社長は「書店を続けていく意志があるから」と述べ、次のステップへの飛躍を目指している。